

# 委託業務仕様書

社会福祉法人東北福祉会  
認知症介護研究・研修仙台センター

## 1. 件名

令和2年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）  
認知症介護基礎研修eラーニングシステム改訂業務

## 2. 委託業務内容

別紙仕様書のとおり

## 3. 成果品

認知症介護基礎研修 e ラーニングシステム教材

## 4. 納入期限

令和3年2月26日（金）

## 5. 納入場所

社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター  
〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1

## 6. その他

本仕様書に明記なき事項については、別途協議し決定する。

認知症介護基礎研修の構成とeラーニングシステム仕様

1. 研修の位置付け等

【研修の位置付け】

- 国の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)に基づき、平成28年度から新設され、現在、政府による認知症施策推進大綱に位置づけられる
- 認知症介護実養成事業における研修体系の基礎的な位置付け
- 介護現場で認知症の基礎知識を有していない介護スタッフが多いことの解消を目標

【研修の目的】

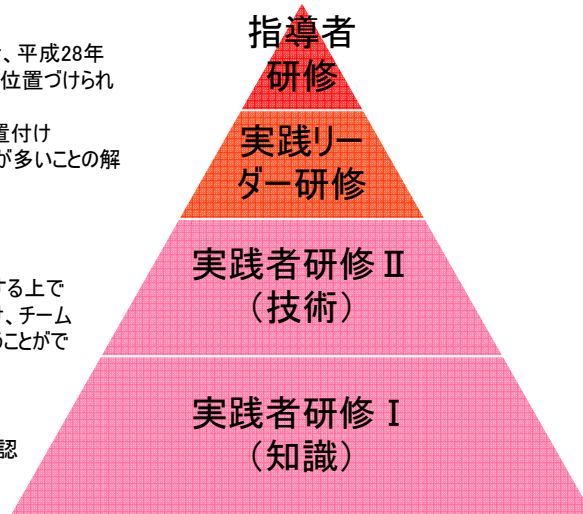
- 初任者養成
- 認知症ケアに携わる者が、その業務(サービス提供)を遂行する上で最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方を身につけ、チームアプローチに参画する一員として基本的なサービス提供を行うことができるようにする

【対象者】

- 在宅、施設に関わらず、介護保険施設・事業所等において認知症ケアの業務に従事する者

【実施主体】

- 都道府県・政令市(及びそれらの委託を受けた者)
- 基礎研修の研修スキームの開発は認知症介護研究・研修センター(仙台・東京・大府)が行う(以下「3センター」もしくは「センター」と表記)

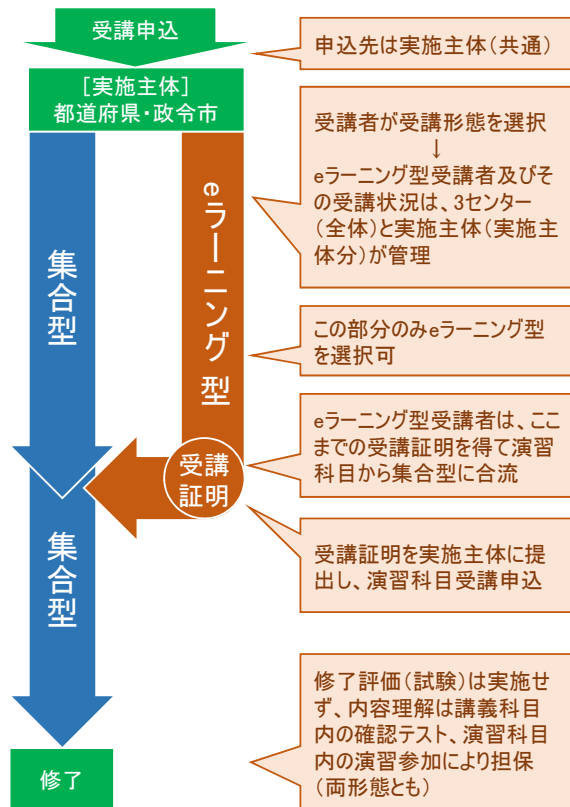


2-1. 研修の構成と受講形態(現行)

【研修の構成】

科目等	時間配分	内容
ねらい	10分	●研修の目的 ●研修の目標
講義: 認知症の人の理解と対応の基本	3時間	●認知症、および認知症の人を取り巻くわが国の現状、施策の基本 I. 認知症の定義と原因疾患 II. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解 III. 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方 IV. 認知症ケアの基礎技術
演習: 認知症ケアの実践上の留意点	3時間	演習1. 認知症の人とのコミュニケーション 1. 認知症の人との基本的なコミュニケーション 2. 不適切なケアの理解と回避方法 演習2. 行動の背景を理解したケアの工夫 3. 病態・症状等を理解したケアの選択 4. 心理やBPSDの発生機序を理解したケアの選択と工夫 演習3. 自事業所の状況や自身のこれまでのケアの振り返り

【受講形態】



## 認知症介護基礎研修シラバス(講義) 180分

科目名	認知症の人の理解と対応の基本
目的	認知症の人を取り巻く現状、症状に関する基礎的な知識を学び、認知症ケアの基礎的な技術に関する知識を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の人を取り巻く現状について把握し、概要を説明できる。</li> <li>2. 認知症の人を理解するために必要な基礎的な知識を身に付け、症状や影響要因等について具体的な例示ができる。</li> <li>3. 具体的なケアを提供する時の判断基準となる考え方を理解し、説明や例示ができる。</li> <li>4. 認知症ケアの基礎的な技術に関する知識を身に付け、要点を列挙し具体的な例示ができる。</li> </ol>
概要	認知症ケアの実践を行うために必要な基礎的な事項について、講義によって解説する。また講義を受動的に聴講するだけでなく、学習状況を確認し理解を深めるために、講義は次のように進行する。すなわち、「到達目標」に挙げた1～4のそれぞれについて、講義を受講した後、講義内容に関する討論や確認テスト等を実施し、さらにそれらへの解説を行う。またこれらによって、演習科目「認知症ケアの実践上の留意点」につなげ、研修全体としての理解度を高める。※本科目については、通信形式でも実施できることとする。
1	<p>認知症の有病率、疾患別割合などの現状と、認知症施策の動向の主要な事項を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の現状と原因疾患別の発症割合(含:若年性認知症)</li> <li>2) 認知症施策の概要(含:地域包括ケア)</li> </ol>
2	<p>認知症の症状と生活や心理への影響、症状出現に影響する要因について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の定義と原因疾患別の特徴、主な中核症状の特徴と行動・心理症状(BPSD)に関する基礎的な知識</li> <li>2) 中核症状の生活への影響と心理</li> <li>3) 中核症状、環境要因等の影響要因、本人の心理との関係による、行動・心理症状(BPSD)のとらえ方と出現原因</li> <li>4) 認知症の人にとっての環境の重要性</li> <li>5) 健康管理や廃用症候群の予防の重要性</li> </ol>
3	<p>ケアの基礎となる考え方を理解し、偏見の解消や家族支援の基礎となる知識を得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方(パーソン・センタード・ケア等)</li> <li>2) 本人の視点からみた尊厳の保持の重要性</li> <li>3) 認知症の人への偏見や誤解とその解消</li> <li>4) 家族介護者の理解</li> </ol>
4	<p>チームケアの観点を含めた基礎的な認知症ケアの方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症の治療の概要</li> <li>2) 認知症の症状への対応</li> <li>3) 不適切な(行うべきでない)関わり方</li> <li>4) チームケアの基本と情報共有</li> </ol>

## 認知症介護基礎研修シラバス(演習) 180分

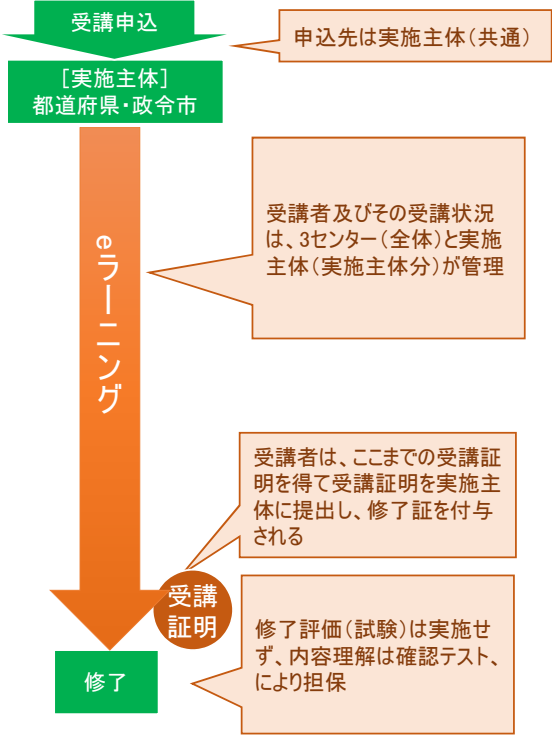
科目名	認知症ケアの実践上の留意点
目的	認知症ケアの実践を行うために必要な方法について、事例演習を通じて、背景や具体的な根拠を把握の上、ケアやコミュニケーションの内容を検討する。自事業所の状況や自身のこれまでのケアを振り返り、認知症の人への対応方法を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の人との基本的なコミュニケーションの方法を理解し、要点を説明できる。</li> <li>2. 不適切なケアについて理解し、その回避方法について具体案を示すことができる。</li> <li>3. 病態・症状等を理解したケアの選択の根拠を自身の考えとして示すことができる。</li> <li>4. 行動・心理症状(BPSD)を理解したケアの選択と工夫の基礎的な方法を理解することができる。</li> <li>5. 自事業所の状況や自身のこれまでのケアの振り返りを研修内容に照らして行うことができる。</li> </ol>
概要	認知症ケアの実践を行うために必要となる基本的な実践方法について、事例演習を通じて体験的に学ぶ。演習は具体的な事例を題材に、「到達目標」に挙げた1・2、及び3・4の別に展開し、背景や具体的な根拠、ケアやコミュニケーションの内容を検討し、結果を共有した後、講義科目「認知症の人の理解と対応の基本」の振り返りを含めた解説を行う。さらに、演習終了後、演習での学びを自事業所の状況や自身のこれまでのケアに照らして振り返り、今後の実践に活かす。
	1・2の内容を合わせて、認知症の人とのコミュニケーション場面を題材とした事例演習を行う。以下の内容を検討し、発表や解説を行うことにより、認知症の人への対応方法の基本について理解を深める。
1	認知症の人との基本的なコミュニケーションの方法
2	不適切なケアの理解と回避方法
	(1・2は一体的に行う)
	行動・心理症状(BPSD)を示す人に対して、根拠を伴った対応方法を検討する事例演習を行う。以下の内容を検討し、発表や解説を行うことにより、3・4の内容について理解を深める。また演習参加によりチームアプローチのプロセスを体験する。
3	病態・症状等を理解したケアの選択
4	行動・心理症状(BPSD)を理解したケアの選択と工夫
	(3・4は一体的に行う)
	3) 行動の背景を理解したケアの工夫

## 2-2. 研修の構成と受講形態案(改訂予定)

### 【受講形態】

#### 【研修の構成案】

科目等	時間配分	内容
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修の目的</li> <li>●研修の目標</li> </ul>
・認知症の人の理解と対応の基本 ・認知症ケアの実践上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症、および認知症の人を取り巻くわが国の現状、施策の基本</li> </ul>
		I. 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方 II. 認知症の定義と原因疾患 III. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解
		IV. 認知症ケアの基礎技術 行動の背景を理解したケアの工夫 認知症の人とのコミュニケーション



## 3-1. eラーニングシステム現行仕様

### 別紙 参照

### 【管理部分】

#### 【受講部分】

↓ 受講内容	↓ コンテンツ形式
ねらい 認知症、および認知症の人を取り巻くわが国の現状、施策の基本	動画視聴 (テスト等未定)
I. 認知症の定義と原因疾患【視聴16分】 確認テスト→解説画面視聴	動画視聴 選択式テスト
II. 認知症の中核症状と行動・心理症状の理解【20分】 確認テスト→解説画面視聴	動画視聴 選択式テスト
III. 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方【16分】 確認テスト→解説画面視聴	動画視聴 選択式テスト
IV. 認知症ケアの基礎技術【24分】 確認テスト→解説画面視聴	動画視聴 選択式テスト

#### 【受講方法】

- 講義動画(チャプターごと)の視聴+確認テストを1セットとする
- 「ねらい」「現状」以外の動画は、26年度作成済みのものを受講者の理解がより進むよう加工して使用するものとする(「ねらい」「現状」動画は新規作成)
- ※ただし、「ねらい」「認知症、および～」部分の確認テストについては未定(①行、②行わない、③チャプターIと一括して実施のいずれかを想定)
- 受講は左記の順序で必ず行う(それ以外の受講方法はできないようにする)
- ただし、中断を挟んでも分割受講することができる

#### 【確認テスト】

- 確認テストは当該チャプターに関する、内容理解を確認するものであり、選択式とする
- チャプターごとに3~5問程度を出題する
- 各問に答えるごとに、解答確認と解説を行う画面(解説画面)に移り、受講者は内容を確認した後、次問に移る
- 正誤による受講者評価は行わない
- ※出題については、①問題ストックから(ランダムに)出題する、②固定した出題とする、のいずれかを想定

#### 【受講者管理】

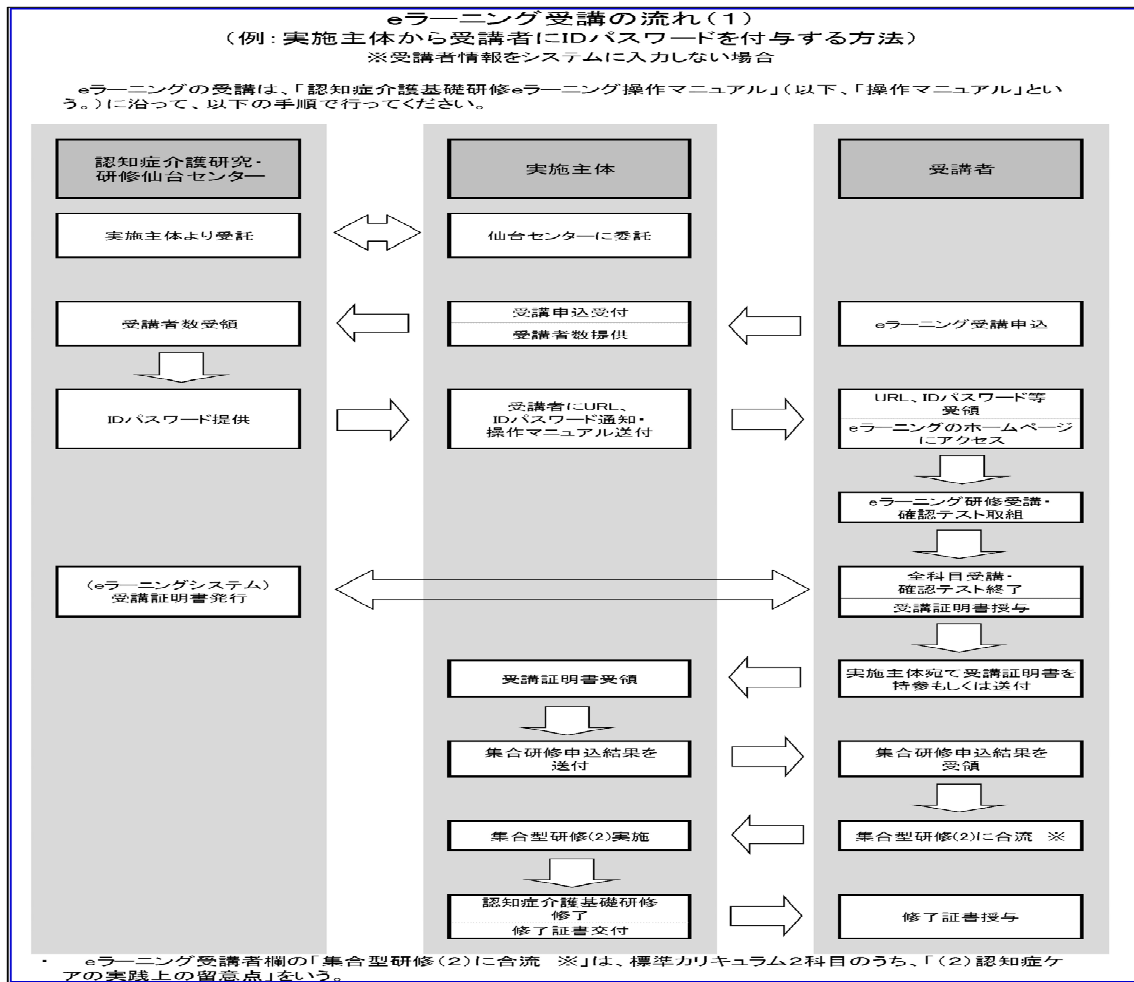
- ※管理方法・主体については変更の場合あり
- 実施主体(都道府県・政令市)への受講申込を受け、実施主体がeラーニング受講予定者名簿を作成→eラーニング運営機関へ提出 運営業者が、受講予定者ごとのID・PwDを発行、一覧として実施主体へ
- 実施主体から受講予定者個人へID・PwDを配布
- 受講予定者が個人でアクセスし、認証により受講開始
- 受講者リストは運営業者で管理し、実施主体は管内分のみ確認可、またセンターが全データを確認可(複数の管理者ID)
- 上記データは受講状態等を含め、excel形式等で出力可能(集計機能付きが望ましい)

#### 【受講状態管理】

- 受講開始の有無、及び受講証明の発行を含め、各受講者の受講段階(視聴履歴)が、①受講者本人(本人分をいわゆる「マイページ」)で、②実施主体(管内分)、③センター(全データ)で確認可能
- 上記は、受講(含予定)者リストに紐付け
- サイト内にヘルプデスクを設置し、質問内容に応じて、運営業者、実施主体、センターのいずれかが対応、FAQも設置
- 運営業者がソフト・ハードの保守管理

#### 【受講証明の発行・管理】

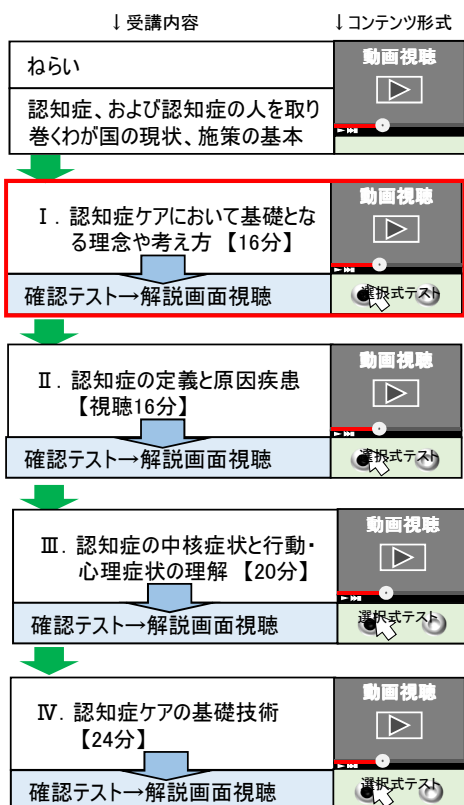
- eラーニング全カリキュラムの受講終了が確認された場合、サイト上で受講証明を発行する
- 受講証明には番号を付与し上記「受講状態管理」データに紐付けられる
- 「受講状態管理」と同様に、本人・実施主体・センターが確認できるようにする



## 3-2. eラーニングシステム(改訂案)

## 別紙 参照

### 【受講部分】



### 【受講方法の改訂部分】

●現行のしくみを基本とし以下の点を改訂する

- 章ごとの確認テストを基本とする。
- 各学習項目ごとの学習構成は、事例+問+解説を構成単位とする。章ごとの確認テストよりも簡易な問とする
- 事例素材はイラストアニメーション、実写映像等、動画事例を主とする
- 1回の学習項目時間は5分以内の構成とする
- 現行Ⅲ章をI章に順序変更する
- 受講は左記の順序で必ず行う(それ以外の受講方法はできないようにする)
- 中断を挟んでも分割受講することができるしくみは維持
- 初見視聴は早送り不可、巻き戻し可とし、2回目以降の視聴は早送りも可とする

### 【確認テスト】

- 確認テストは当該チャプターに関する、内容理解を確認するものであり、選択式とする
- チャプターごとに5問を出題
- 各問に答えるごとに、解答確認と解説を行う画面(解説画面)に移り、受講者は内容を確認した後、次問に移る
- 出題については、問題ストックから(ランダムに)出題する方式

### 【管理部分ほぼ現行】

#### 【受講者管理】予定

- 実施主体(都道府県・政令市)への受講申込を受け、実施主体がeラーニング受講予定者名簿を作成→eラーニング運営機関へ提出(運営業者が、受講予定者ごとのID・PwDを発行、一覧として実施主体へ)
- 実施主体から受講予定者個人へID・PwDを配布
- 受講予定者が個人でアクセスし、認証により受講開始
- 受講者リストは運営業者で管理し、実施主体は管内のみ確認可、またセンターが全データを確認可(複数の管理者ID)
- 上記データは受講状態等を含め、excel形式等で出力可能(集計機能付きが望ましい)

#### 【受講状態管理】

- 受講開始の有無、及び受講証明の発行を含め、各受講者の受講段階(視聴履歴)が、①受講者本人(本人分をいわゆる「マイページ」で)、②実施主体(管内分)、③センター(全データ)で確認可能
- 上記は、受講(含予定)者リストに紐付け
- サイト内にヘルプデスクを設置し、質問内容に応じて、運営業者、実施主体、センターのいずれかが対応、FAQも設置
- 運営業者がソフト・ハードの保守管理

#### 【受講証明の発行・管理】

- eラーニング全カリキュラムの受講終了が確認された場合、サイト上で受講証明を発行する
- 受講証明には番号を付与し上記「受講状態管理」データに紐付けられる
- 「受講状態管理」と同様に、本人・実施主体・センターが確認できるようにする



## 3-2. eラーニング教材および管理システムに関する改訂の仕様案 (2020.7現在における案) 今後の変更、追加あり

別紙 参照

### 【教材コンテンツ仕様に関する改訂】

#### ● 現行のしくみを基本とし以下の点を改訂する

- 章ごとの確認テストは現行通りとする
- 教材構成の基本構成は、学習項目ごとに、事例+問+解説を基本とした構成とする
- 事例素材はイラストアニメーション、実写映像等、動画事例を主とする
- 双方向性を考慮したコンテンツとする
- 1回の学習項目時間は5分以内の構成とする(マイクロラーニング化)
- 現行Ⅲ章をⅠ章に順序変更する
- 中断を挟んでも分割受講することができるしくみは現行のしくみを維持
- 初見視聴は早送り不可、巻き戻し可とし、2回目以降の視聴は早送りも可とする

### 【確認テスト】

- 確認テストは当該チャプターに関する、内容理解を確認するものであり、選択式とする
- チャプターごとに5問を出題
- 各問に答えるごとに、解答確認と解説を行う画面(解説画面)に移り、受講者は内容を確認した後、次問に移る
- 出題については、問題ストックから(ランダムに)出題する方式

## 4. その他(全体に関わる要件)

- パーソナルコンピュータ(Windows及びMac)、タブレット端末(Windows、Mac、Android他一定割合以上のユーザがいるシステム)、及びスマートフォン(同左)のいずれでも使用でき、端末をまたいでオリジナルユーザが同定できること
- Internet Explorer他、一定割合以上のユーザがいるウェブブラウザでの動作環境が極力保証されること
- システム利用者(ユーザ)は受講者(個人)、実施主体(都道府県・政令市等)、3センターで、後二者は管理者であるが、権限が及び範囲が異なり(実施主体は実施主体管内受講者分、3センターは全体)、それぞれに応じた利用権限(制限)が付与されること
- ユーザはDCnet(当センターWEBサイト)を入口として本件システムを利用できること
- ハードウェア及びソフトウェア上で、相応のセキュリティ対策を施すこと(特に不正ユーザによるアクセス、情報漏えいへの対策が万全であること)
- データ保存及びシステム運用において、事故時の相応のバックアップ体制があること
- 令和3年2月末までに本格稼働可能なシステムを構築すること
- 令和3年1月末時点において試用稼働ができ動作テストが確認できること
- 完成後も適時システム・コンテンツの改変が可能であること
- ヘルプデスク、FAQのほか、管理者用(センター及び実施主体)、及び受講者個人用の3種の取扱説明書(PDF形式等PC上での閲覧と印刷の両方が可能な形式)を作成すること
- 想定として、基礎研修受講者は年間最大で1万人強であり(平均)、年間受講者の規模に応じて適切に受講環境が保たれること(同時アクセス数、管理受講者数、受講ログ等管理システム等を勘案)
- 受講者もしくは実施主体からランニングコストに関する費用徴収を行う可能性があることを鑑み、本格稼働後の1ユーザあたりのランニングコストは現行水準を大幅に超過せず(1ユーザ@1,000)、適正な価格を設定すること
- システム稼働後の運用経費についても上記項目を考慮した適正な価格の提案ができること

### 【企画提案時の留意点】

- 企画提案の内容は、スキームやフレームワークだけでなく、具体的なシナリオに準拠したコンテンツ内容を具体的に提案すること
- 企画提案時の説明資料として、コンテンツ内容に関する実際の教材が理解できる計画書あるいは資料を提出すること(過去作製した商品の一部、コンテンツ内の代表的な部分に関する実物)

## 1. 現行 サーバー構成

ホスト名：dcnet.marutto.biz  
IP Address：202.212.70.157  
サーバータイプ：NTTPCコミュニケーションズ WebARENA 8G(8GB/4コア/100GB)

## 2. 現行 OSバージョンおよび主なミドルウェア構成

OS：CentOS Linux release 7.5.1804 (Core)  
Web：Apache/2.4.16 (Unix)  
PHP：PHP 5.4.42 (cli) (built: Sep 15 2015 16:36:22)  
DB：PostgreSQL 9.3.21

## 1. 当センター DCnetサーバー構成

さくらVPSサーバ情報

ホスト名	tk2-201-10422.vs.sakura.ne.jp
virtualhost	www.dc.gr.jp req.dc.gr.jp
IPv4アドレス	160.16.51.176
CPU	10コア
メモリ	32 GB
ストレージ	HDD 3,200 GB
OS	CentOS 6.9
用途	Dcnetのホスト

OSバージョンおよび主なミドルウェア構成

種別	名称	バージョン	用途
OS	CentOS	6.9	基本ソフトウェア
ミドルウェア	Postfix	2.6.6	メールMTA
ミドルウェア	Dovecot	2.0.9	メールPOP
ミドルウェア	Saslauthd	2.1.23-15.el6_6.2	メール認証
ミドルウェア	Bind	9.8.2-0.62.rc1.el6_9.5.x86_64	DNS
ミドルウェア	Httpd	Apache/2.2.15 (Unix)	Webサーバープログラム
ミドルウェア	PHP	5.3.3	Webプログラム実行
ミドルウェア	Memcached	1.6.6	セッション管理
ミドルウェア	MySQL	14.14 Distrib5.1.73, for redhat-linux-gnu (x86_64) using readline 5.1	データベース

## 2. 当センター DCnetシステム構造図

